

2022年3月8日

## 第4回新しい資本主義実現会議に際しての意見

公益社団法人経済同友会

代表幹事 櫻田 謙悟

量子技術、AI、再生・細胞医療・遺伝子治療、シンセティックバイオロジーは、いずれもこれからの経済・社会構造を左右する重要分野です。それぞれについて、国家戦略の策定、官民連携体制の構築、有志国との連携を速やかに進めていく必要があります。

その上で、「新しい資本主義」の実現という当会議のミッションに照らして、これらの取り組みをどのように進めるかという観点から、3点意見を申し上げます。

### (1) 成果創出につながる新しいPDCAサイクルの構築を

これまでも科学技術・イノベーション計画や統合イノベーション戦略において重点分野が設定されてきました。直近では、グリーンイノベーション基金や大学ファンドなど、長期にわたる研究開発投資の枠組みも整備されています。

これらの取り組みも含め、着実に成果に結びつけ、科学技術研究の結果を出していくためには、戦略の立案、実行、評価・検証など、PDCAの各段階において、従来とは異なる創意工夫が必要だと思います。

特に、4分野はいずれも最先端であり、国内外の研究動向も日毎に変化するものと思います。それを踏まえれば、戦略のKPI そのものも、研究・知見の進歩に対応し、常時、妥当性の観点から見直し、ダイナミックに進化させなくてはならないと思います。4分野の研究で世界を牽引するという大目標に照らし、成果に結びつくPDCAサイクルの構築を求めます。

### (2) 「新しい資本主義実現」との関係を示し、研究開発のモメンタム向上を

科学技術だけではイノベーションは生まれません。革新的な技術がもたらす変化を社会が受け入れ、人々が歓迎することによって、「新しい成長」の原動力と

なるイノベーションが創出されるのだと思います。そのため、この4分野の研究開発がこれからの日本に何をもたらすのか、「新しい資本主義」の実現においてどのような役割を担うのか、そのストーリーを社会に発信する必要があると思います。

例えば、これまで蓄積してきた技術力をさらに磨き上げて日本の強みとすること、社会課題解決を通じて新たな成長を生み出すこと、安全保障の観点から他国には委ねられない重要分野であることなど、「なぜこの4分野なのか」を国民各層が理解し、共感することが、研究開発とイノベーションのモメンタムを生み出します。

基礎資料で提示されている優秀な人材の早期抜擢、チームでの挑戦、失敗の許容と継続的な取り組みの重要性は、企業が新規事業に挑むときに直面する課題であり、既存事業・組織との軋轢が避けられない難しい問題だと思います。その困難を乗り越えるためには、目的とビジョンの明確化、トップによる説明の徹底を通じて、組織的にガバナンスを効かせる他に方法はありません。

「なぜこれを選択し、追求するのか」という目的が明確であり、社会に受け入れられてこそ、挑戦が可能になるのです。

### (3) 官民の役割分担の具体化を

4分野の研究開発の成否は、日本の成長と安全保障、社会の豊かさを維持するために、死活的に重要なものと受け止めています。イノベーションという成果を生むためには、官民連携という言葉を、より具体的な役割と責任の分担に落とし込むことが不可欠だと思います。

まず、PDCAの各段階における政府と民間それぞれのミッションと責任の所在を明確に示して、双方が成果に対するコミットメントを示す必要があります。そして、戦略の大方針とそれぞれのミッションを究極のガイドラインと位置づけ、その範囲内であれば、民間・研究者の裁量を最大限尊重すべきだと思います。例えば、進捗管理やプロセスの見直し等は研究者の裁量を尊重すべきです。そして、政府には、想定されるリスクへの対応、デュアルユースのような難しい判断を要する分野の研究開発の後押し等、政府にしかできない役割に注力し、研究開発の促進を長期的な目線で支えていただきたいと思います。

以上